

iPadで図面を検索・表示、一元管理システムを構築

梶フェルト工業

図面管理にiPadを使用

東京都墨田区、密集した住宅街の奥に建つ小さな工場が梶フェルト工業だ。羊毛フェルト、不織布を仕入れて断裁、打抜き、切り取り、両面テープ貼りを行い、パッキンや給油用部品、家具の足に付けるカバーなど3,000種類以上を製造。一日に2、30点を生産する。裁断機、型抜き機、フェルト在庫の大きなロールなどが所狭しと並ぶ現場をのぞくと、壁際に置かれたiPadが目に入った。

同社のモノの流れは、①材料の受け入れ、②断裁、両面テープ貼り、③型抜き、④検査、梱包、⑤出荷、という流れになっている。iPadは②、③、④の現場で、主に図面を表示するために使用されている。

現場では新しい品番の製品を加工する時、前に加工していた製品から切り替えて新たに別の品番を加工する時、加工終了後の製品をチェックする時、品質規格を確認する時などに図面を使用する必要がある。前工程から流れてきた伝票(生産・加工指示書)に記された得意先名をiPadで検索し、

品番を選択すると図面が出てくるシステムだ。システムはウェブのブラウザ上で運用されているが、工場内にはwi-fiが接続されており、動作は速い。当然セキュリティは守られている。

このシステムは現場以外でも活躍している。「図面をどこでも見ることができるので、客先で顧客と打ち合わせをする際にも役立っています」(同社の梶朋史代表取締役)。

一元管理を目指してシステム構築

従業員25名の小さな企業である同社にiPadが導入されたのは、2010年。日本でiPadが発売されたのが同年の5月末なので、同社の意識の高さ、対応の素早さがうかがえる。

iPad導入のきっかけについて、梶社長はこう話す。「少量多品種にしたがって図面が3,000枚以上あり、現場で確認するのが大変な作業でした。図面を出すこと自体もいちいち事務所に頼まなけれ

倉庫からフェルトを出し、裁断



会社概要

会社名：梶フェルト工業(株)
所在地：〒131-0032
東京都墨田区東向島5-41-10
従業員数：25名
創業：1921年
事業内容：フェルト製品および、他関連商品の加工・製造販売

両面テープを貼りつけ、型抜きをする。これは家具の足などにつけるカバー



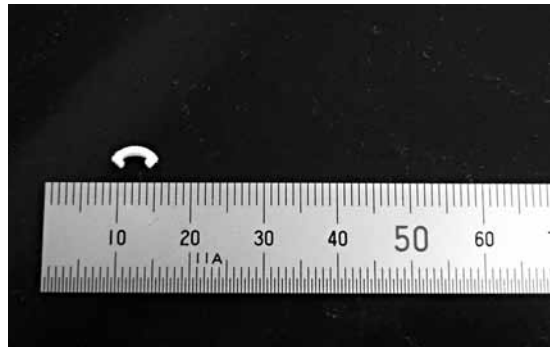
ばならず、事務方では図面に詳しくないので間違ったものを出しても気付かないこともありました。また仕様や品番の変更があった時に、変更前と変更後の図面を混同してしまうことも多く、ミスにつながっていました」(梶社長)。

図面の変更があれば、指示を受けた人が関係する作業員全員に伝えなければならないが、声かけ中心のため確実にはできていなかった。また、図面が来てすぐに注文が来る製品もあれば、2、3カ月後に思い出したかのように注文が入る製品もあり、そうなるとますますどの図面が正しいのかわからなくなっていたという。

前述のような問題点はすべて、図面やそれにまつわる情報が一元管理できていないことに起因する。また出力する紙が多く現場で扱いにくいことや、紙で保存している図面が場所をとっていたことも問題だった。これらを解決すべく、情報共有が瞬時に可能で、紙を使わないiPadを導入することになった。システムの構築を手がけたのは、東京東部中小企業のITシステム支援を得意とする、LTシステムの廣木秀之代表取締役である。

まずは梶社長がiPadを個人的に2台購入し、その後5台を法人契約で購入。ドキュメント管理アプリなど数本を試してみたが現場でうまく活用できるものは見つからず、独自にウェブシステムを

かなり小さな製品も取り扱っている



梱包、出荷工程



構築することとなった。

“見ること”だけに限定する

現場で使うシステムを構築するにあたって、「“見ること”に機能を限定し、ごくシンプルなものを目指した」と廣木社長は話す。「いざシステムを構築するとなると、機能をあれもこれも追加したくなり結局使いづらくなりがちです。現場では60、70歳の方もシステムを使用しますので、余計な機能を追加すると混乱してしまいます」(廣木社長)。

iPadを選んだ理由としては、画面がきれいに表示され閲覧性に優れている点を挙げた。直感的に操作ができ、立ち上げも早く、アップデートなどの運用が楽という利点もある。また、フェルトを扱う現場なのでホコリが立ちやすく、キーボードは壊れてしまう恐れがあったという。「パソコンと比較すると安く、iPadは落としたりしなければ